

1. 当該診療科の特徴	<p>* 学会の研修施設等指定・認定状況</p> <p>当院は2017年度から開始になる小児科専門研修プログラム(新専門医制度)においては、京都府立医科大学小児科を基幹施設とするプログラムの連携施設となります。従って、当院は独自の1年目後期研修医は新規に募集せず、京都府立医科大学小児科プログラムに参加した後期研修医の1年目もしくは2年目の臨床研修を担当します。なお、当院で2年間の初期研修を終えた研修医が後期研修1年目を連携施設である当院から開始することは可能です。</p> <p>一方、旧制度においては、小児科専門医研修施設兼研修支援施設(日本小児科学会認定)であったため、旧制度でスタートした3年目の後期研修医の受け入れは可能です。</p> <p>小児神経専門医研修施設(日本小児神経学会認定) てんかん専門医研修施設(日本てんかん学会認定)</p> <p>* 臨床研修内容の特徴と診療実績等</p> <p>小児疾患の臨床(急性疾患、慢性疾患、新生児)を体験・理解することができる。 小児救急疾患のトリアージおよび救急処置の仕方を学べる。 小児神経疾患、小児循環器疾患など subspecialty の専門的な研修をうけることができる。 (緊急ポータブル脳波検査、脳波ビデオ同時モニター、髄液検査、心・腹部・体表の超音波検査、食物アレルギー経口負荷試験、心臓カテーテル検査、腎生検など) 小児の外来診療(フォローアップ外来、救急外来、乳幼児健診、予防接種)を経験・習得できる。 当院小児科では隣接の京都市子ども保健医療相談・事故防止センター(京あんしんこども館)の活動を全面的に支援しており同センターの講習会・施設案内・電話相談などの業務を通じて子どもの事故の実態と予防法を学べる。 小児科の診療実績の詳細については、当院ホームページ「医療関係者の方へ」⇒「診療科・部のご案内」⇒「小児科」をご覧ください</p>										
2. カリキュラムの構成等 プログラムの特徴	<p>最初の1年間は総合的な小児科を学ぶために、病棟の入院患者を中心に受け持つ 専門医療を学ぶために専門外来につく 乳幼児健診、予防接種、事故予防を通して小児保健業務に精通する 小児科当直業務を通じて小児の1次・2次救急診療を学ぶ 上級医の指導下にICUに入院した重症小児患者の担当をして3次救急診療を学ぶ 小規模の小児科に出張して、小児の外来診療を学ぶ(自己完結型の診療を学ぶ) 研修関連施設である京都府立医科大学に短期出張することで、当科では学べないNICUや血液腫瘍疾患の診療を学ぶ</p>										
3. 到達目標	<p>小児科の一般的な診察ができ、病歴の確実な聴取と診療録を作成することができる</p> <p>小児の主な疾患の鑑別診断と治療計画を立てることができる</p> <p>小児の救急疾患の対応と応急処置が手際よくできる</p> <p>小児の発達を理解でき、発達に応じた指導ができる</p> <p>小児の薬用量や用法、成人との薬理作用の違いが理解できている</p> <p>家族の心理面を含めたサポートと疾患・検査・治療の適切な説明ができ、家族との友好的信頼関係を築くことができる</p> <p>乳幼児健診、予防接種、事故防止など社会医学的な視点をもてる</p> <p>コメディカルとのチーム医療ができる</p> <p>感染制御の十分な知識を持ち、院内感染対策を実践できる</p> <p>医療安全に取り組むことができ、診療保険制度についても理解できている</p> <p>緊急ポータブル脳波検査の実施・評価・治療ができるようになる</p>										
4. 研修期間	<p>旧専門医制度でスタートした3年目の後期研修医については、本人の希望に応じて1年間の研修期間中に随時(3か月～半年)京都府立医科大学でNICU、血液腫瘍疾患などを研修することを考慮する。</p> <p>もちろん、研修医自身が希望する場合は全期間を当院で研修する。</p> <p>2017年度から開始となる小児科専門研修プログラム(新専門医制度)において京都府立医科大学小児科を基幹施設とするプログラムに参加した後期研修医は全3年間の内の1年間は3つの連携施設(京都第一赤十字病院、京都第二赤十字病院、京都市立病院)のいずれかの施設で臨床研修を行うことになっており、当院に配属となった1年目もしくは2年目の後期研修医は当院で臨床研修を1年間行う。</p>										
5. 取得が可能な資格等	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学会名</th> <th>取得可能資格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本小児科学会</td> <td>小児科専門医</td> </tr> <tr> <td>日本小児神経学会</td> <td>小児神経専門医</td> </tr> <tr> <td>日本てんかん学会</td> <td>てんかん専門医</td> </tr> <tr> <td>日本周産期・新生児医学会</td> <td>新生児蘇生法専門コースプロバイダー</td> </tr> </tbody> </table> <p>※自己啓発に係る受講費用(BLS、PALS)の1/2の額を年間50,000円まで支給あり</p>	学会名	取得可能資格	日本小児科学会	小児科専門医	日本小児神経学会	小児神経専門医	日本てんかん学会	てんかん専門医	日本周産期・新生児医学会	新生児蘇生法専門コースプロバイダー
学会名	取得可能資格										
日本小児科学会	小児科専門医										
日本小児神経学会	小児神経専門医										
日本てんかん学会	てんかん専門医										
日本周産期・新生児医学会	新生児蘇生法専門コースプロバイダー										

6. 指導体制	<p>部長、副部長のもと7年目以上の小児科専門医が指導する 指導医との1:1を原則とする 後期研修医2年目以降は初期研修医の相談相手となり、後輩に指導することで自らも学ぶ 新規入院患者の臨床カンファランス(月曜、火曜、木曜日のAM8:30)、入院退院カンファランス (月曜日PM4:00)、部長回診(金曜日午前)、副部長回診(水曜日午前)、英語論文抄読会 (水曜日AM8:30)、救急外来診療のふり返り(適宜)を通じて、症例のプレゼンテーションを練習する 貴重な症例については学会発表(3~4回/年)、論文執筆(1~2編/3年)を奨励・指導する</p>
7. 現在所属する 後期研修医の勤務 状況等	<p>後期研修医3年目が2名、1年目が1名で、2018年春にに当科入局予定の3年目の後期研修医を広く 募集中である。 当科での後期研修に興味がある方は是非一度施設見学にいらしてください (見学時間はなるべく半日ではなく、1日にしてください)</p>
8. 小児科部長からの メッセージ	<p>小児科の後期研修では入院患児を主に担当していただきます。当科では1週間に約40名の患者さん が入院されるため、後期研修医は平均1~2人/日の新たな入院患者を担当することになります。 小児科病棟への入院疾患は急性感染症(肺炎、腸炎など)が7割を占めますが、当院には救命救 急センターが併設されていることもあり、溺水、窒息、急性脳症、ALTE、熱中症など3次救急疾患 はICUで診療します。また、川崎病と神経救急疾患(けいれん重積、けいれん群発、意識障害など) が多いことも当科の特徴です。当科で管理中のてんかん症例数は京都府内で最も多く、後期研修3 年間の内にすべての研修医が緊急ポータブル脳波を自分で検査できるようになり、脳波をモニター しながら指導医または上級医の直接指導下に診断的治療ができるような実践的トレーニングをうけ ることができます。さらに、複雑心奇形の術前管理、心臓カテーテル検査、各種アレルギー疾患の 治療、食物アレルギー経口負荷試験、各種腎疾患の治療、腎生検なども経験できます。 当院は日本小児神経学会の認定をうけた小児神経専門医研修施設であるとともに、日本てんかん 学会の認定をうけた研修施設でもあり、「小児神経専門医」および「てんかん専門医」取得に必要な 研修も受けることができます。 一方、小児科病棟には院内学級が併設されており、入院中の慢性疾患患者だけでなく、不登校 や心身症など児童精神疾患にも対応しています。また、年間出産数約500の当院では正常新生児 のベッドサイド回診を小児科医が毎日行うとともに10床のベビーセンターも有しているため新生児医 療の研修も可能です。前日入院、前夜の救急外来患者を対象とした毎朝のクリニカル・カンファラ ンス、毎週の英語文献のジャーナルクラブ、学会・研究会での積極的な発表、論文執筆などの指導を 中心としたoff the job trainingにも力を入れています。</p>

京都第二赤十字病院小児科業績集（2012～2016年）

2012年（H24年）

長村敏生. 意識障害. 前川和彦、相川直樹監修. 今日の救急治療指針. 東京：医学書院, 467-472, 2012.

日本小児救急医学会ガイドライン作成委員会（伊藤泰雄、上野 滋、浮山越史、長村敏生、鎌形正一郎、川瀬弘一、草川 功、久保 実、村田祐二、吉田雅博）編集. 日本小児救急医学会監修. エビデンスに基づいた小児腸重積症の診療ガイドライン. 東京：へるす出版, 2012.

神岡英機、太田百合子、長村敏生、鈴木葉子、宮崎祐治、遠藤郁夫、奥山真紀子、才村 純、田中哲郎、（故）今村榮一. 巷野悟郎編. 子どもの保健. 2版. 東京：診断と治療社, 2012.

長村敏生. 痙攣. 大関武彦、古川 漸、横田俊一郎、水口 雅総編集. 今日の小児救急治療指針. 東京：医学書院, 3-5, 2012.

長村敏生. 熱中症, 低体温症. 遠藤文夫総編集. 最新ガイドライン準拠小児科診断・治療指針. 東京：中山書店, 225-228, 2012.

長村敏生. 意識障害. 小児内科 44(3) : 438-441, 2012.

大前禎毅, 長村敏生. 小児科の視点からみた移送の判断. 小児外科 44(6) : 533-535, 2012.

長村敏生, 田中哲郎. 誤飲事故の現状とその対応. 小児科臨床 65(増刊号) : 1535-1544, 2012.

長村敏生. 熱中症. 小児科学レクチャー2(4) : 939-946, 2012.

長村敏生. ハチ、クラゲによる刺傷. 小児疾患の診断治療基準・第4版, 小児内科 44 (増刊号) : 886-887, 2012.

市川光太郎, 長村敏生, 松裏裕行, 人見知洋. 日本小児科学会専門医研修認定施設・全国救命救急センターにおける重篤小児と救急室死亡症例の現状調査. 日本小児科学会雑誌 116(1) : 112-115, 2012.

澤田 淳, 大矢紀昭, 加藤康代, 高峯智恵, 中辻浩美, 西田明美, 川口真理, 長村敏生, 清沢伸幸. 京都市での一般家庭における 0 歳児の事故調査の試み. 日本医事新報 No. 4579 : 25-27, 2012.

山田至康, 市川光太郎, 伊藤泰雄, 長村敏生, 岩佐充二, 許 勝栄, 羽鳥文麿, 箕輪良行, 野口 宏. 救命救急センターにおける小児の診療に関する全国調査. 日本救急医学会雑誌 23(2) : 65-81, 2012.

M Takeuchi, T Osamura, H Yasunaga, H Horiguchi, H Hashimoto, S Matsuda. Intussusception among Japanese children: an epidemiologic study using an administrative database. BMC Pediatrics 12: 36-41, 2012.

S Ono, K Yoshida, A Kinoshita, T kikuchi, Y Nakane, N Kato, M Sadamatsu, T Konishi, S Nagamitsu, M Matsuura, A Yasuda, M Komine, K Kanai, T Inoue, T Osamura, K Saito, S Hirose, H Koide, H Tomita, H Ozawa, N Niikawa, N Kurotaki. Mutations in PRRT2 responsible for paroxysmal kinesigenic dyskinesias also cause benign familial infantile convulsions. Journal of Human Genetics 57: 338-341, 2012.

Y Ito, I Kusakawa, Y Murata, E Ukiyama, H Kawase, S Kamagata, S Ueno, T Osamura, M Kubo, M Yoshida. Japanese guidelines for the management of intussusceptions in children, 2011. Pediatrics International 54: 948-958, e35-42, 2012.

足立晋介、青谷裕文、清水恒広、木崎善郎、清澤伸幸. インフルエンザ A (H1N1) 2009 対策としての京都府内小児科ネットワークと小児入院患者の状況調査、新型インフルエンザと府内小児科連携. 京都医学会雑誌 59 : 13-17, 2012.

長村敏生, 吉岡 博, 青谷裕文. 京都府の小児救急医療における重症患者の現状—京都小児重症患者診療情報システム稼働開始 1 年間 (2010 年 11 月~2011 年 10 月) のまとめ—. 京都医学会雑誌 59 : 47-55, 2012.

伊藤陽里, 小田部修, 久保田樹里, 大前禎毅, 長村敏生. 京都府における重症 RS ウイルス感染症例の検討. 日本小児救急医学会雑誌 11 : 354-358, 2012.

伊藤泰雄、上野 滋、浮山越史、長村敏生、鎌形正一郎、川瀬弘一、草川 功、久保 実、村田祐二、吉田雅博. 小児腸重積症の診療に関するアンケート調査報告. 日本小児救急医

学会雑誌 11 : 396-401, 2012.

田川晃司, 長村敏生, 河辺泰宏, 平尾多恵子, 長谷川雅文, 東道公人, 古谷明代, 小林奈歩, 久保樹里, 大前禎毅, 清沢伸幸, 山本 徹. 頭痛・嘔気で発症し、髄液細胞増多を伴った左側小脳半球の限局性梗塞の 1 例. 京都第二赤十字病院医学雑誌 33 : 61-67, 2012.

長村敏生 (監修). 子どもの事故防止実践マニュアル—社会全体 (大人の力) で子どもたちを事故から守るために— (改訂 8 版). 京都市子ども保健医療相談・事故防止センター : 京都, 2012 年 4 月 1 日.

長村敏生 (監修). 子どもの事故の応急手当マニュアル (改訂 8 版). 京都市子ども保健医療相談・事故防止センター : 京都, 2012 年 4 月 1 日.

2013 年 (H25 年)

長村敏生. 消化管異物. 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢総編集. 今日の治療指針 2013 年版. 東京 : 医学書院, 1196-1197, 2013.

長村敏生. 第 7 章子どもの生活環境、2. 自転車. 巷野悟郎編. 子どもの保健. 4 版. 東京 : 診断と治療社, 119, 2013.

長村敏生. 第 7 章子どもの生活環境、4. 乗用車. 巷野悟郎編. 子どもの保健. 4 版. 東京 : 診断と治療社, 119-120, 2013.

長村敏生. 第 13 章事故と応急処置. 巷野悟郎編. 子どもの保健. 3 版. 東京 : 診断と治療社, 170-183, 2013.

長村敏生. 痙攣. 田中哲郎監修. 子育て支援における保健相談マニュアル改訂版. 東京 : 日本小児医事出版社, 45-48, 2013.

長村敏生. 子どもが急病時に慌てないために. 田中哲郎監修. 子育て支援における保健相談マニュアル改訂版. 東京 : 日本小児医事出版社, 58-62, 2013.

清沢伸幸. 子どもの心疾患. 田中哲郎監修. 子育て支援における保健相談マニュアル改訂

版. 東京：日本小児医事出版社, 90-97, 2013.

長村敏生. 精神運動発達. 田中哲郎監修. 子育て支援における保健相談マニュアル改訂版.
東京：日本小児医事出版社, 195-199, 2013.

長村敏生. 言葉の発達. 田中哲郎監修. 子育て支援における保健相談マニュアル改訂版.
東京：日本小児医事出版社, 200-203, 2013.

長村敏生. 意識障害・けいれん. *Emergency Care* 26(1) : 50-58, 2013.

長村敏生. 子どもの事故防止活動を有効に展開するために知っておきたいこと. 小児保健
石川 25(1) : 4-5, 2013.

長村敏生. 熱中症対策. 小児科学レクチャー3(3) : 740-743, 2013.

藤本一途, 幸道和樹, 東道公人, 宇野浩史, 吉野ラモナ, 伊藤育世, 木村 学, 古谷明代,
大前禎毅, 長村敏生, 清沢伸幸. RS ウイルスによる下気道感染との鑑別に苦慮した重症急性
性僧帽弁閉鎖不全の一例. 日本小児救急医学会雑誌 12 : 33-37, 2013.

小林奈歩, 長村敏生, 田川晃司, 幸道和樹, 東道公人, 久保樹里, 大前禎毅, 清沢伸幸,
宮尾 昌, 玉木敬二. 頭蓋内出血を初発症状とした胆道閉鎖症の 3 例. 日本小児救急医学
会雑誌 12 : 42-49, 2013.

加藤康代, 高峯智恵, 中辻浩美, 大矢紀昭, 長村敏生, 清沢伸幸, 澤田 淳. 乳幼児用品
でも事故はおきる一京都市での 0 歳児対象の事故調査葉書きから集計一. 小児保健研究
72 : 267-273, 2013.

東道公人, 大野邦彦, 吉野ラモナ, 大前禎毅, 渡部玉蘭, 長村敏生, 井川 理, 泉 浩,
小野 滋, 岩井直躬, 清沢伸幸. 思春期に慢性 S 状結腸軸捻転症と診断された 2 症例. 日
本小児栄養消化器肝臓学会雑誌 27 : 36-41, 2013.

小林奈歩, 長村敏生, 久保 裕, 貴久山和貴, 河辺泰宏, 平尾多恵子, 田川晃司, 大前禎
毅, 清沢伸幸, 池谷 博. *Autopsy imaging* (胸部単純 CT) 所見の解釈に苦慮した突然
死の 3 か月女児例. 日本小児救急医学会雑誌 12 : 409-416, 2013.

小林奈歩, 長村敏生, 井上 聡, 貴久山和貴, 米田堅佑, 久保 裕, 河辺泰宏, 平尾多恵

子, 木村 学, 東道公人, 大前禎毅, 清沢伸幸, 家原知子. 過去4年間に当科外来を初診した未診断小児悪性腫瘍症例13例のまとめ. 京都第二赤十字病院医学雑誌 34:38-45, 2013.

田川晃司, 長村敏生, 大前禎毅, 久保 裕, 河辺泰宏, 平尾多恵子, 長谷川雅文, 木戸脇智志, 東道公人, 小林奈歩, 久保樹里, 清沢伸幸, 文野誠久, 田尻達郎. 当科初診の腸管膜リンパ管腫の3例. 京都第二赤十字病院医学雑誌 34:58-65, 2013.

長村敏生 (監修). 子どもの事故防止実践マニュアルー社会全体 (大人の力) で子どもたちを事故から守るためにー (改訂9版). 京都市子ども保健医療相談・事故防止センター: 京都, 2013年4月1日.

長村敏生 (監修). 子どもの事故の応急手当マニュアル (改訂9版). 京都市子ども保健医療相談・事故防止センター: 京都, 2013年4月1日.

2014年 (H26年)

長村敏生. 第7章子どもの生活環境、2. 自転車. 巷野悟郎編. 子どもの保健. 4版. 東京: 診断と治療社, 119, 2014.

長村敏生. 第7章子どもの生活環境、4. 乗用車. 巷野悟郎編. 子どもの保健. 4版. 東京: 診断と治療社, 119-120, 2014.

長村敏生. 第13章事故と応急処置. 巷野悟郎編. 子どもの保健. 4版. 東京: 診断と治療社, 170-183, 2014.

長村敏生. 熱中症. 小児内科 46(3):367-371, 2014.

長村敏生. けいれんへの対応のポイント. 小児外科 46(4):391-395, 2014.

大前禎毅, 長村敏生. ショック対応. 健康教室 65(11、第766集):20-21, 2014.

長村敏生. 事故予防と安全対策. 小児科診療 77(9):1165-1170, 2014.

長村敏生. 入院後のモニタリングはどうするか. 小児内科 46(9) : 1204-1207, 2014.

清沢伸幸, 小林奈歩, 木村 学, 東道公人, 藤井法子, 大前禎毅, 長村敏生. 京都第二赤十字病院小児科における川崎病急性期治療結果について. 京都第二赤十字病院医学雑誌 35(1) : 2-11, 2014.

吉田真由美, 長村敏生, 西田祥子, 北井布美, 石田ゆうき, 大前禎毅. 夜間・休日に入院した患儿が示す臨床症状に関する母親の不安軽減に向けての退院前指導. 日本小児救急医学会雑誌 13 : 13-19, 2014.

小林早織, 足立 優, 池田憲二, 上田和利, 木村 丈, 清水 武, 鈴木 亮, 武田敬子, 仁平寛士, 平尾多恵子. 東北復興支援、新生児科医に何ができるか?—福島で安心して出産、子育てをするために—. 日本未熟児新生児学会雑誌 26 : 166-168, 2014.

太田翔三, 川谷圭司, 河辺泰宏, 桜本真理, 鈴木 学, 橋本 絢, 林 雅子, 平田理智, 松原 健, 矢野恵理. 東北復興支援、新生児科医に何ができるか? SNS でつなぐ輪—新生児科医が構築する Social Networking Service—. 日本未熟児新生児学会雑誌 26 : 169-171, 2014.

中辻浩美, 高峯智恵, 加藤康代, 大矢紀昭, 長村敏生, 清澤伸幸, 澤田 淳. 乳児の不慮の事故対策はいつから開始するべきか—4 か月健診における保護者のアンケート調査結果より—. 小児保健研究 73 : 397-402, 2014.

長村敏生, 市川光太郎. 公費助成によるインフルエンザ菌 b 型、肺炎球菌ワクチン接種が小児細菌性髄膜炎および菌血症の発生に及ぼす影響. 日本臨床救急医学会雑誌 17 : 551-557, 2014.

米田堅佑, 長村敏生, 井上 聡, 貴久山和貴, 久保 裕, 河辺泰宏, 平尾多恵子, 木村 学, 東道公人, 小林奈歩, 大前禎毅, 清沢伸幸. 左右差を伴った熱性けいれん群発後の頭部 MRI 検査により右側脈絡裂嚢胞を認めた 1 例. 京都第二赤十字病院医学雑誌 35(1) : 62-67, 2014.

長村敏生 (監修). 子どもの事故防止実践マニュアル—社会全体 (大人の力) で子どもたちを事故から守るために— (改訂 10 版). 京都市子ども保健医療相談・事故防止センター : 京都, 2014 年 4 月 1 日.

長村敏生 (監修). 子どもの事故の応急手当マニュアル (改訂 10 版). 京都市子ども保健医

療相談・事故防止センター：京都，2014年4月1日。

2015年（H27年）

長村敏生．化膿性髄膜炎．市川光太郎編．内科医・小児科研修医のための小児救急治療ガイドライン．3版．東京：診断と治療社，141-148，2015．

長村敏生．意識障害．水口 雅、市橋 光、崎山 弘、総編集．今日の小児治療指針．16版．東京：医学書院，6-9，2015．

長村敏生．急性脳炎．水口 雅、市橋 光、崎山 弘、総編集．今日の小児治療指針．16版．東京：医学書院，671-673，2015．

長村敏生．第7章子どもの生活環境、2．自転車．巷野悟郎編．子どもの保健．5版．東京：診断と治療社，119，2015．

長村敏生．第7章子どもの生活環境、4．乗用車．巷野悟郎編．子どもの保健．5版．東京：診断と治療社，119-120，2015．

長村敏生．第11章新生児、6．寝かせ方．巷野悟郎編．子どもの保健．5版．東京：診断と治療社，156，2015．

長村敏生．第13章事故と応急処置．巷野悟郎編．子どもの保健．5版．東京：診断と治療社，170-183，2015．

長村敏生．有熱性けいれん．市川光太郎編．ピットフォール症例から学ぼう！要点をおさえる小児救急・プライマリケア．1版．東京：南江堂，153-157，2015．

長村敏生．熱中症のようだ．小児科 56(4)：557-563，2015．

大前禎毅，長村敏生．IX.中毒、4.抗てんかん薬．小児内科 47（増刊）：949-953，2015．

長村敏生．小児の神経救急臨床における緊急ポータブル脳波検査の有用性について．京都第二赤十字病院医学雑誌 36(1)：14-26，2015．

長村敏生, 吉岡 博, 青谷裕文. 京都府における小児救急重症患者と CPAOA 症例の実態—京都小児重症患者診療情報システム 2 年間の集計—. 日本小児救急医学会雑誌 14:10-16, 2015.

長村敏生, 大前禎毅, 濱田裕之, 岡野創造, 小松博史, 平家俊男, 細井 創, 中畑龍俊. 京都府における小児化膿性髄膜炎の発生動向 (2007~2013 年) とワクチン接種による予防効果の検討. 京都医学会雑誌 62 : 21-29, 2015.

澤田 淳, 大矢紀昭, 加藤康代, 高峯智恵, 中辻浩美, 長村敏生, 清澤伸幸. 京あんしんこども館の活動—10 年の成果は?. 小児保健研究 74 : 563-568, 2015.

Araki T, Yokota H, Ichikawa K, Osamura T, Satomi A, Tsuru T, Umehara M, Niitsu T, Yamamoto T, Nishiyama K. Simulation-based training for determination of brain death by pediatric healthcare providers. SpringerPlus 4: 412, 2015.

浅間浩明, 福井智宏, 木村 学, 糸井利幸, 森西晃嗣. 大血管転換術が胸部大動脈の血行力学におよぼす影響の数値解析. 日本流体力学誌「ながれ」34 : 167-174, 2015.

小林奈歩, 清沢伸幸, 木村 学, 井上 聡, 米田堅佑, 久保 裕, 河辺泰宏, 平尾多恵子, 東道公人, 藤井法子, 大前禎毅, 長村敏生. 当院における川崎病急性期症例の群馬スコアの検討. Progrss in Medicine. 35 : 1116-1120, 2015.

加藤康代, 大矢紀昭, 中辻浩美, 高峯智恵, 長村敏生, 澤田 淳. 0 歳児・1 歳児に発生した事故の質問紙調査結果—原因は保護者の危険認識の不足と乳幼児の予期せぬ行動—. 小児保健研究 72 : 712-718, 2015.

田川晃司, 長村敏生, 小林奈歩, 久保 裕, 河辺泰宏, 平尾多恵子, 東道公人, 大前禎毅, 清澤伸幸. 胸痛と両側膝関節痛で発症したりウマチ熱の 1 例. 日本小児救急医学会雑誌 14 : 392-397, 2015.

藤井法子, 北村綾香, 大内一孝, 森原 徹, 秋岡親司, 細井 創. 混合性結合組織病の難治性関節炎にトシリズマブが著効した 1 例. 小児リウマチ 6 : 57-61, 2015.

小林奈歩, 長村敏生, 木村 学, 加藤大吾, 松岡太朗, 井上 聡, 河辺泰宏, 東道公人, 藤井法子, 大前禎毅. 不全麻痺を合併した川崎病の 2 例. 京都第二赤十字病院医学雑誌 36(1) : 67-74, 2015.

長村敏生, 吉岡 博, 青谷裕文. 京都府における小児救急由来の死亡症例 79 例の実態—京都小児重症患者診療情報システム 4 年間の集計—. 日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会雑誌 15 : 3-10, 2015.

Todo K, Omae T, Osamura T, Kiyosawa N, Sugimoto M, Shima T, Imamura T, Imashuku S. Exsanguinating bleeding following tooth extraction in a 12-year-old girl: a rare case of acquired haemophil A. Blood Coagul Fibrinolysis. 26(8)4964-966, 2015.

長村敏生. 自転車ヘルメット、チャイルドシートの重要性について. JAF 関西交通安全実行委員会第 17 回交通安全フォーラム「クルマの事故から子どもを守る～誰が守る 地域の連携 子どもの特性～」資料, 8-14, 2015 年 1 月.

長村敏生 (監修). 子どもの事故防止実践マニュアル—社会全体 (大人の力) で子どもたちを事故から守るために— (改訂 11 版). 京都市子ども保健医療相談・事故防止センター : 京都, 2015 年 4 月 1 日.

長村敏生 (監修). 子どもの事故の応急手当マニュアル (改訂 11 版). 京都市子ども保健医療相談・事故防止センター : 京都, 2015 年 4 月 1 日.

森臨太郎, 麦島秀雄, 竹内義博, 野々山恵章, 清澤伸幸, 島袋林秀, 岡本 茂, 照屋秀樹, 西田俊彦, 盛一亨徳, 森崎菜穂. 情報管理委員会・平成 24 年度病院調査報告書. 日本小児科学会雑誌 119 : 114-122, 2015.

森臨太郎, 麦島秀雄, 竹内義博, 野々山恵章, 清澤伸幸, 島袋林秀, 岡本 茂, 照屋秀樹, 西田俊彦, 盛一亨徳, 森崎菜穂. 情報管理委員会・病院調査からみた小児科常勤医師数の動向に関する報告書. 日本小児科学会雑誌 119 : 123-129, 2015.

長村敏生, 寺井 勝, 濱田洋通, 清水直樹, 椎間優子, 瀧向 透, 渡部誠一, 松裏裕行, 市川光太郎. 重篤小児前向き登録調査報告書. 日本小児科学会雑誌 119 : 1446-1450, 2015.

浮山越史, 長村敏生, 草川 功, 岩中 督, 黒田達夫. 「小児腸重積症の診療ガイドライン」公表後アンケート調査報告—あなたの診療は変わりましたか?—. 日本小児救急医学会雑誌 14 : 414-422, 2015.

2016 年 (H28 年)

長村敏生. 第 7 章子どもの生活環境、2. 自転車. 巷野悟郎編. 子どもの保健. 6 版. 東京 : 診断と治療社, 119, 2016.

長村敏生. 第 7 章子どもの生活環境、4. 乗用車. 巷野悟郎編. 子どもの保健. 6 版. 東京 : 診断と治療社, 119-120, 2016.

長村敏生. 第 11 章新生児、6. 寝かせ方. 巷野悟郎編. 子どもの保健. 6 版. 東京 : 診断と治療社, 158, 2016.

長村敏生. 第 13 章事故と応急処置. 巷野悟郎編. 子どもの保健. 6 版. 東京 : 診断と治療社, 172-186, 2016.

浅井大介, 長村敏生. 主要徴候と薬の使い方. 田原卓浩編. 総合小児医療カンパニア小児科外来薬の処方プラクティス. 1 版. 東京 : 中山書店, 26-37, 2016.

大前禎毅, 長村敏生. 小児で急激に起こる頭痛の鑑別について教えてください. 小児内科 48(8) : 1117-1120, 2016.

大前禎毅, 長村敏生. 長引くけいれん一けいれん重積、けいれん群発. 小児内科 48(11) : 1827-1831, 2016.

長村敏生. 乳幼児の誤飲事故の特徴と対策. 小児科臨床 69 (12) : 2617-2624, 2016.

大前禎毅, 長村敏生. 挫滅症候群. 小児内科 48(増刊) : 572-575, 2016.

小林奈歩, 木村 学, 清澤伸幸, 井上 聡, 加藤大吾, 松岡太郎, 河辺泰宏, 東道公人, 藤井法子, 大前禎毅, 長村敏生. 当院で治療した川崎病年長発生例の臨床的検討. *Progress in Medicine*. 36(7) : 916-920, 2016.

Todo K, Omae T, Osamura T, Imashuku S. Severe *Helicobacter pylori* gastritis-related thrombocytopenia and iron deficiency anemia in an adolescent female. *Ann Hematol* 95: 835-836, 2016.